



平井市の歴史は古く、中世末期に戦国大名北条氏が平井村を宿駅に指定し、毎月3回、6の付く日に三斎市を立てたのが始まりだとされています。しかし平井村の近隣では、五日市や青梅、八王子などに大きな市が立っていて、そうした大きな商圏の狭間となり、江戸時代の後期には衰退してしまいました。

明治に入った頃には、三斎市は立てられなくなっていました。1月11日の「達磨市」、3月1日の「雛市」、5月1日の「人形市」、12月26日の「暮れの市」は続いていて、最も賑わう暮れの市には宿通りに100軒もの出店が並び、市のお客を目当てにサーカスや見世物小屋まで出たといわれています。

現在では、雛市はなくなってしまい、達磨市と人形市も数軒のみ出店となってしまいました。毎年12月26日に立つ暮れの市も、正月飾りやごを扱う店や乾物を扱う店と食べ物の屋台など、全部で約20軒程度です。市の立つ場所も宿通りから志茂町児童館前の路地に縮小していますが、地元の人たちには欠かせない暮れの風物詩です。



ひら い い ち
平井市